



円相場、続伸 145円ちょうど近辺 米金利低下で

4日の東京外国為替市場で、円相場は続伸した。17時時点では前日の同時点に比べ94銭円高・ドル安の1ドル=144円99銭前後で推移している。3日発表の米景況感指標が市場予想を下回る結果となり、同日の米長期金利が低下。日米金利差の縮小を意識した円買い・ドル売りが優勢だった。日米株式相場の下落を受けて投資家のリスク選好姿勢が後退するとの見方も円への買いにつながった。

円相場は16時半ごろに一時144円76銭近辺まで上昇した。米サプライマネジメント協会（ISM）が3日発表した8月の製造業景況感指数は47.2と7月（46.8）から小幅な改善にとどまり、好不況の境目とされる50やダウ・ジョーンズ通信がまとめた市場予想（47.9）に届かなかった。改めて米景気減速に対する懸念が広がり、3日の米長期金利が低下したことから円に対してドルを売る動きが強まった。

日銀による追加利上げ観測がくすぶり続けている点も円相場の支えとなった。政府が3日に開いた経済財政諮問会議で、植田和男総裁は経済・物価の見通しが実現していくようなら「引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和度合いを調整」するとの姿勢を改めて示した。

円は対ユーロでも続伸した。17時時点では同1円07銭円高・ユーロ安の1ユーロ=160円27～31銭で推移している。

ユーロは対ドルで横ばい。17時時点は前日の同時点とおおむね同じ1ユーロ=1.1055ドル前後で推移している。ユーロには米金利低下を受けた買いが入った一方、株安などを背景とした売りも出て方向感を欠いた。



原油が大幅反落、供給懸念の後退や株安で 金は続落

4日の国内商品先物市場で、原油は大幅に反落した。リビアでの生産減少の要因となっていた政治的対立は解決に向けて協議が進んだと伝わり、供給不安が和らいだ。米景気減速による原油需要の伸び悩みへの警戒感もくすぶり、需給の緩みを意識した売りが出た。4日の日経平均株価が前日比1638円安と急落し、投資家心理が冷え込むとして、株と同じリスク資産である原油先物の売りを促した面もあった。

金は続落した。東京外国為替市場で円相場が一時1ドル=144円台後半と、前日夕から円高・ドル安が進み、円建てで取引される国内金先物の割高感を意識した売りが出た。もっとも、8月の米雇用統計の発表を6日に控え、米連邦準備理事会（FRB）による利下げ幅やペースを見極めたいとの姿勢もあり、一段と下値を探る動きは限られた。

以下は主な商品（中心限月）の清算値。

・ 金	1万1681円	98円安
・ 白金	4225円	105円安
・ 原油	6万3100円	3500円安
・ ゴム（RSS）	351.6円	7.4円安

※単位は金と白金が1グラム、原油が1キロリットル、ゴムが1キログラム。原油は東京商品取引所、それ以外は大阪取引所での取引。



原油価格、変動の裏にカナダ産 輸送能力拡大で存在感

原油市場でカナダ産の存在感が増している。5月には北米西海岸につながるパイプラインの輸送能力を拡張し、アジア市場でシェア拡大をにらむ。カナダ産の増産は原油価格の押し下げ圧力となる一方、同国特有の生産障害が思わぬ価格上昇を招くリスクもある。

カナダは米国、サウジアラビア、ロシアに次ぐ第4位の産油国だ。英業界団体のエネルギー・インスティテュートによれば、2023年のカナダの原油生産量は日量565万バレルと13年に比べると41%増え、世界生産量の6%を占めるまでになった。

みずほ銀行の高橋興道アナリストは「原油価格の堅調な推移はカナダ石油会社の採算性を改善し、増産意欲を支える」と指摘する。

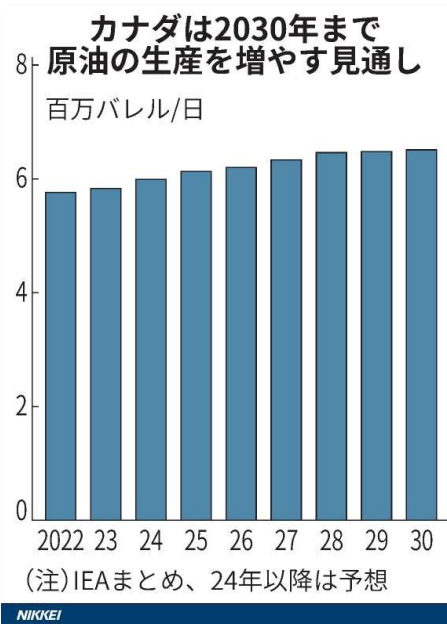
カナダ産原油が脚光を浴びる理由の一つが輸送能力の拡大だ。24年5月にカナダの政府系企業であるトランス・マウンテンが、西部のアルバータ州から北米西海岸に原油を輸送するパイプラインを広げた。輸送能力は従来の日量30万バレルから日量89万バレルと約3倍に膨らんだ。

もともと製油所の集積地であるメキシコ湾岸に向けたパイプラインはあったが、輸送能力がカナダの生産量を下回る状況が続いていた。輸送の限界に加え、カナダ産原油は重質で処理にコストがかかるため、米国産から大幅に価格を割り引かれることが多かった。

価格交渉に不利な要因だった供給力の弱さが解消し、米国産との価格差は縮小傾向にある。英LSEGによると、カナダ産原油と米指標WTI（ウエスト・テキサス・インターメディアート）の価格差は5月以降、1バレル11.5～14.75ドルのマイナスと、直近で最も大きかった2023年11月のマイナス28.5ドルよりも縮小した。

販路の拡大は米国だけではない。エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）の船木弥和子主任研究員は「西海岸への輸送能力が高まったことで、太平洋を経由した中国・インド向けの原油輸送がしやすくなった」と指摘する。

LSEGの海上輸送データを見ると、カナダから中国への輸出は断続的で、23年は4月の日量8500バレルが最後だった。一方、24年5～8月は4カ月連続で輸出しており、7月は日量8万8700バレルと、23年4月の10倍以上に達した。





重質のカナダ産原油がアジアへ流れ込めば、性質が比較的近い中東産原油と競合し、価格の下落につながる可能性も指摘される。カナダ産原油の増産傾向は中長期でも原油価格の下落圧力になる。国際エネルギー機関（IEA）によれば、カナダの原油生産量は30年に日量651万バレルと、23年比で12%増える見通しだ。

資源エネルギー庁によると、世界の原油確認埋蔵量に占めるカナダの割合は20年末時点で9.7%。ベネズエラ（17.5%）、サウジ（17.2%）に次ぎ、米国（4.0%）を引き離す。「環境面などから30年以降も持続的に原油の生産を増やす可能性は低いのではないか」（JOGMECの船木氏）との指摘もあるが、裏返せばそれまでは増産が続く可能性がある。

カナダ産原油の存在感が増せば、同国特有の要因が原油価格の上昇材料となりうる公算も大きい。直近では、7月下旬にアルバータ州で大規模な山火事が発生。原油の供給懸念から相場を押し上げる要因の一つとなった。

原油の減産方針をめぐって難しいかじ取りが迫られているサウジやロシアなど石油輸出国機構（OPEC）プラスも、米国やカナダをはじめとする非加盟国の増産姿勢に手を焼いている。カナダの原油生産が、今後の原油市場を左右する一因となりそうだ。



サウジ原油、8月積み8%安 1年3カ月ぶり下げ幅

日本がサウジアラビアから輸入する原油の価格は、代表油種「アラビアンライト」の8月積み価格が1バレル79.36ドルと7月積み比べて6.88ドル（8.0%）安くなった。下落は2カ月ぶり、下げ幅は1年3カ月ぶりの大きさだった。石油の主要な消費国である米国や中国の景気不安から国際価格が下落したことを映した。

日本の石油会社が長期契約で購入する原油は直接取引（ダイレクト・ディール=DD）原油と呼ばれる。価格はアジア指標のドバイ原油とオマーン原油の平均価格に、サウジが需給動向などを踏まえて決める調整金を加減し、毎月見直す。

8月の両原油の月間平均価格は1バレル77ドル台と、7月から7%以上安くなった。サウジ国有石油会社のサウジアラムコが8月積みの調整金を引き下げていたため、下げ幅はさらに広がった。

代表油種のライトのほか、軽質の「エキストラライト」や重質の「ヘビー」など全4油種で価格が下がり、いずれの下げ幅も米国で金融不安が生じた2023年5月以来の大きさとなった。

原油の需要が減るとの懸念が、国際価格の下落につながった。8月上旬には米雇用統計が市場予想を下回り、景気減速が意識された。中国でも原油の需要減退を示す統計が相次いだ。8月下旬には、国際指標のWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）先物が約半年ぶりの安値をつける場面があった。

供給面でも、石油輸出国機構（OPEC）プラスを構成する一部の国が10月から日量220万バレルの自主減産を段階的に縮小するとしている。25年にかけて、原油の供給が需要を上回る展開が見込まれている。

ロイター通信は8月30日、自主減産の縮小が計画通りに進む予定だと伝えた。原油の供給が増えるとの見方から同日のWTI先物は前日比3%下落した。

一方で、供給リスクが原油相場を下支えした面もある。パレスチナ自治区ガザを巡るイスラエルとイスラム組織ハマスとの停戦交渉が停滞したほか、アフリカの産油国リビアでは国内の政治的な対立から原油の生産が一部止まった。



ヒマシ油、7～9月2%高 円安・物流費上昇で

塗料や潤滑油など工業用に使われるヒマシ油の7～9月期の大口需要家渡し価格は1キログラム615～635円程度と、4～6月期に比べて10～15円（2.0%）程度上昇した。上昇は2四半期連続となる。

ヒマシ油はメーカーと需要家が原料相場や需給環境を基に交渉で大口価格を決める。4～6月の為替の動向や国内外の物流費、ドラム缶などの容器代の上昇が交渉材料となった。

一方、ヒマシ原油の国際指標であるロッテルダム現物相場は4～6月に1トン1700ドル台後半～1800ドル台前半と、一時1トン1930ドルをつけるなど高水準で推移していた1～3月に比べて下落基調だった。

人手不足によりトラックなど国内の輸送費が上昇しているほか、中東情勢の緊迫化に伴うスエズ運河の輸送停滞や航路の変更で、主産地のインドから欧州の港へ向かう海上運賃が高止まりしているという。



週間原油コストの推移

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	7/23～7/29	81.92	▲2.85	155.77	▲2.81	80.26	▲4.29
	7/30～8/5	79.54	▲2.38	151.23	▲4.54	75.65	▲4.61
	8/6～8/12	77.78	▲1.76	147.47	▲3.76	72.14	▲3.51
	8/13～8/19	80.47	2.69	148.78	1.31	75.30	3.16
	8/20～8/26	77.59	▲2.88	146.46	▲2.32	71.47	▲3.83
	8/27～9/2	79.06	1.47	145.94	▲0.52	72.57	1.10
水曜日～ 火曜日	7/24～7/30	81.52	▲2.97	155.24	▲3.00	79.59	▲4.50
	7/31～8/6	79.18	▲2.34	149.41	▲5.83	74.40	▲5.19
	8/7～8/13	78.51	▲0.67	148.06	▲1.35	73.11	▲1.29
	8/14～8/20	79.92	1.41	148.60	0.54	74.69	1.58
	8/21～8/27	78.04	▲1.88	146.14	▲2.46	71.73	▲2.96
	8/28～9/3	78.39	0.35	146.40	0.26	72.18	0.45

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート